

# Lisp

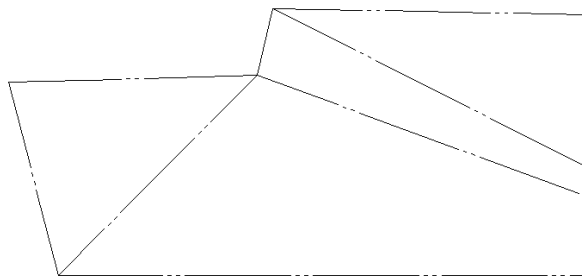
「ATOOL.lsp」「ETOOL.lsp」「LTOOL.lsp」「ZTOOL.lsp」「LYTOOL.lsp」ファイルを  
C:\Program Files\ACAD2002\Support  
にコピーして使用してください。

## —「ATOOL.lsp」 コマンド<NO>

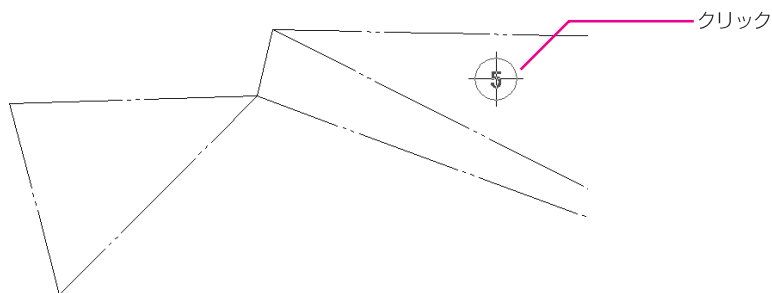
○の中に連続した数字（始めの数字は任意の整数）をクリックとともに記入（ナンバリング）します。

**Note** ナンバリングの文字高さは、印刷出力時に2mmで印刷される設定です。大きさを変更したいときは、入力時の尺度で調整をしてください。これに関連してコマンドで使用する「文字スタイル」の文字高さは、必ず「0」に設定してください。

- ① コマンドラインに<no>と入力します。
- ② コマンドラインの「尺度を入力」で<200>と入力します。
- ③ コマンドラインの「最初の番号を入力」で<5>と入力します。

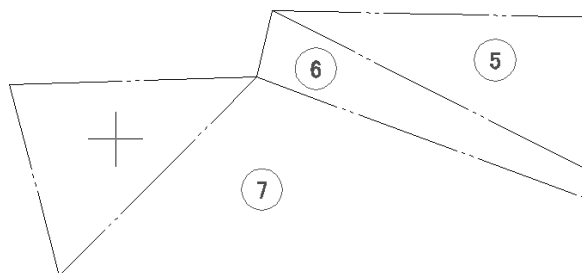


- ④ 画面をクリックします。



順次繰り返します。

終了するときは、Esc キーを押すか右クリックします。



⑤ コマンドラインの内容は図のとおりです。

```

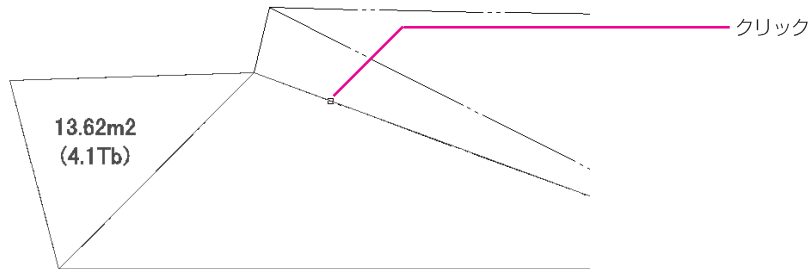
コマンド: no
縮尺を入力 200
最初の番号を入力 5
番号を入れる場所を入力 TEXT
現在の文字列は: "DIM" 文字の高さ: 400.00
文字列の始点を指定 または [位置合わせ] (J)/文字列変更 (S): MC
文字列の中央点を指定:
高さ指定 <400.00>: 400.00
文字列の角度を指定 <0.0>: 0
文字列を入力: 5
コマンド: CIRCLE 円の中心点を指定 または [2 点 (2P)/3 点 (3P)/接, 接, 半 (TTR)]:
円の半径を指定 または [直径 (D)] <500.00>: 500.00
コマンド: 番号を入れる場所を入力 TEXT
現在の文字列は: "DIM" 文字の高さ: 400.00
文字列の始点を指定 または [位置合わせ] (J)/文字列変更 (S): MC
文字列の中央点を指定:
高さ指定 <400.00>: 400.00
文字列の角度を指定 <0.0>: 0
文字列を入力: 6
    
```

—「ATOOL.lsp」 コマンド<AE>

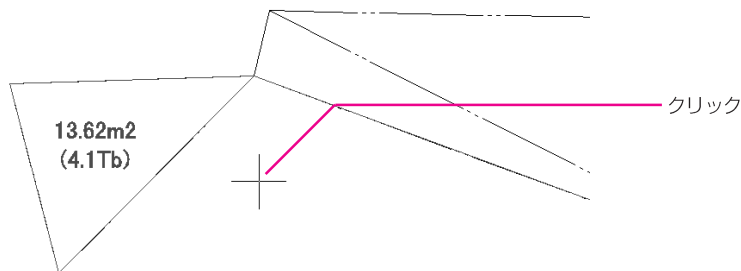
閉じたポリラインの面積の測定値を「m<sup>2</sup>・坪」の両方の単位で図面に文字記入します。

**Note** このコマンドで使用する文字高さは印刷出力時に2mmで印刷される設定です。大きさを変更したいときは、入力時の尺度で調整をしてください。また、文字の基点は[中央(MC)]で記入されます。

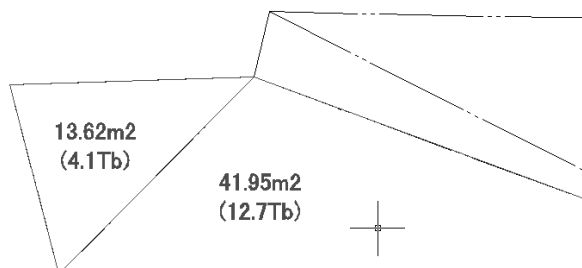
- ① コマンドラインに<AE>と入力します。
- ② コマンドラインの「ポリラインを指示」で閉じたポリラインをクリックします。



- ③ コマンドラインの「文字記入の場所を指示」で画面上をクリックします。



- ④ コマンドラインの「尺度を入力」で< 200 >と入力します。



コマンドラインの内容は図のとおりです。

```

コマンド: AE
ポリラインを指示 AREA
コマンド: 1 点目を指定 または [オブジェクト(O)/加算モード(A)/減算モード(S)]: 0
オブジェクトを選択:
面積 = 41950116.73, 周長 = 38159.74
コマンド: 文字記入の場所を指示
縮尺を入力 200
TEXT
現在の文字スタイル: "DIM" 文字の高さ: 400.00
文字列の始点を指定 または [位置合わせオブジェクト(J)/文字スタイル変更(S)]: MC
文字列の中央点を指定:
高さ指定 <400.00>: 400
文字列の角度を指定 <0.0>: 0
文字列を入力: 41.95m2
コマンド: TEXT
現在の文字スタイル: "DIM" 文字の高さ: 400.00
文字列の始点を指定 または [位置合わせオブジェクト(J)/文字スタイル変更(S)]: MC
文字列の中央点を指定:
高さ指定 <400.00>: 400
文字列の角度を指定 <0.0>: 0
文字列を入力: (12.7Tb)

```

### — [ETool.lsp] コマンド<XOF>

1つのオブジェクトを、X軸方向へ連続して、数値入力だけでオフセットを行います。

**Note** マイナスの数値には対応していません。

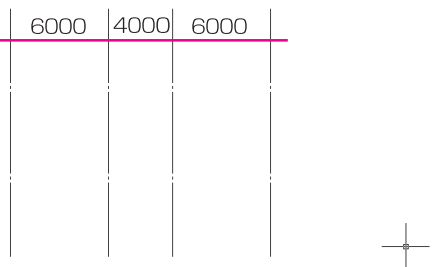
- ① コマンドラインに<XOF>と入力します。
- ② コマンドラインの「X方向へ連続オフセットする図形を指示」で線分をクリックします。



- ③ コマンドラインの「オフセットする距離を入力」で<6000>と入力します。



- ④ コマンドラインの「オフセットする距離を入力」で<6000>と入力します。
- ⑤ コマンドラインの「オフセットする距離を入力」で<4000>と入力します。
- ⑥ コマンドラインの「オフセットする距離を入力」で<6000>と入力します。



コマンドラインの内容は図のとおりです。

```
コマンド: XOF
X方向へ連続オフセットする図形を指示
オフセットする距離を入力 8000
OFFSET
オフセット間隔を指定 または [通過点(T)] <5000.00>: 8000.0000
オフセットするオブジェクトを選択 または <終了>:
オフセットする側の点を指定: 1500000000,0
オフセットするオブジェクトを選択 または <終了>:
コマンド:
オフセットする距離を入力 4000
OFFSET
オフセット間隔を指定 または [通過点(T)] <6000.00>: 4000.0000
オフセットするオブジェクトを選択 または <終了>:
オフセットする側の点を指定: 1500000000,0
オフセットするオブジェクトを選択 または <終了>:
コマンド:
オフセットする距離を入力 6000
```

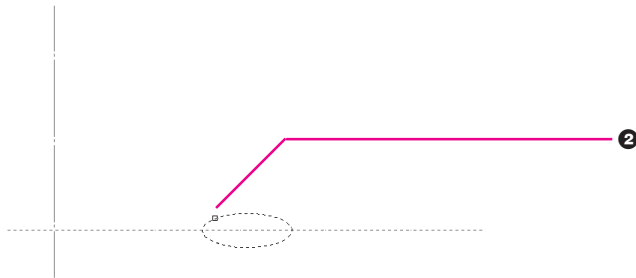
### — [ETOOOL.lsp] コマンド<YOF>

機能は、方向がY軸であること以外は [XOF コマンド] に準拠します。

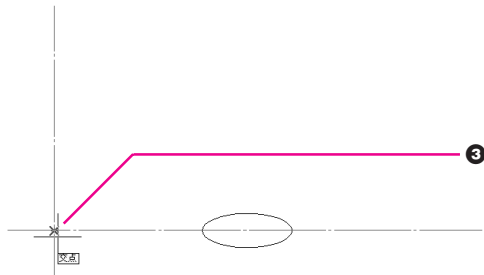
### — [ETOOOL.lsp] コマンド<CR>

元のオブジェクトの残したまま、複製して回転をかけます。

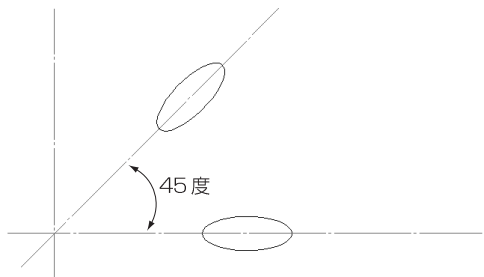
- ① コマンドラインに<CR>と入力します。
- ② コマンドラインの「図形を選択」でオブジェクトを選択します。



- ③ コマンドラインの「基点を入力」で回転軸を選択します。



- ④ コマンドラインの「回転角度を入力」で<45>と入力します。



コマンドラインの内容は図のとおりです。

```

コマンド: CR
図形を選択
オブジェクトを選択: もう一方のコナを指定: 認識された数: 2
オブジェクトを選択:
基点を入力
回転角度を入力 (45) COPY
オブジェクトを選択: 認識された数: 2
オブジェクトを選択: 基点 または 移動距離を指定 または [連続(M)]: 0,0 目的点を指定
または <基点を移動距離として使用>: 0,0
コマンド: ROTATE
UCS の現在の正の角度: ANCDIR=反時計回り ANGBASE=0.0
オブジェクトを選択: 認識された数: 2
オブジェクトを選択:
基点を指定:
回転角度を指定 または [参照(R)]: 45.0
コマンド: nil
  
```

— [LTOOL.lsp] コマンド<WW>

すべての画層 (ロックされていない) を画面上に表示します。

— [ZTOOL.lsp] コマンド<ZE> ズーム→オブジェクト範囲

コマンド<ZA> ズーム→図面全体

コマンド<D> ズーム→前画面

コマンド<ZW> ズーム→窓

コマンド<ZD> ズーム→ダイナミック

ファイル名	内容
ETOOL.lsp	図形関連補助ツール 1.コマンド名<XOF>→X方向への連続オフセット (オフセット時に数値入力) 2.コマンド名<YOF>→Y方向への連続オフセット (オフセット時に数値入力) 3.コマンド名<CR>→元の図形を残したまま回転する
ATOOL.lsp	面積関連補助ツール 1.コマンド名<NO>→編集画面をクリックするたびに1.2.3.のようにナンバリングを行う 2.コマンド名<AE>→ポリライン指示によりそのポリラインの面積M <sup>2</sup> と坪を計算して記入する
LTOOL.lsp	画層関連補助ツール 1.コマンド名<WW>→全てのレイヤーを表示する
ZTOOL.lsp	表示関連補助ツール 1.コマンド名<ZE>→ズームのEと同じ働きをする 2.コマンド名<ZA>→ズームのAと同じ働きをする 3.コマンド名<D>→ズームのPと同じ働きをする 4.コマンド名<ZW>→ズームのWと同じ働きをする 5.コマンド名<ZD>→ズームのDと同じ働きをする
LYTOOL.lsp	画層表示関連補助ツール 1.コマンド名<EE>→選択した画層がロックされる 2.コマンド名<ER>→選択した画層がロック解除される 3.コマンド名<SF>→選択した画層が非表示になる 4.コマンド名<SC>→先に選択した図形の画層を後に選択した図形の画層に置換える 5.コマンド名<SD>→選択した図形の画層だけの表示